

挨拶をしましょう

今日は 7 月 20 日、いつもの年なら終業式で、明日から夏休みという時期ですが、今年は 8 月 7 日までです。あと 3 週間がんばりましょう。最近、挨拶をする声が小さい人が多いのが気になります。下を向いたまま、素通りする人や、おしゃべりに夢中で挨拶をしない人もいます。よく大人は、「しっかりあいさつをしなさい。」と言います。あいさつはなぜしなければならないのでしょうか。みんなはじっくり考えたことがありますか？「あいさつをすることは、人間関係づくりの第一歩。とっても大切やで。」と社会で生活する人たちが口をそろえて言うのには、きっと意味があると思うのです。みんなには、その意味をきちんと理解したうえで、自分から「あいさつ」ができる人になってほしいと思います。

「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」「失礼します」など、日本にはたくさんあいさつの言葉があります。朝はなぜ「おはよう」なのでしょうか。そんなところから考えてみましょう。

「あいさつ」は相手への思いやりの気持ちを伝えるもので、昔から太陽と自然を大切にしてきました。昔の人たちは、自分たちの命があ

るのも、太陽と自然（特に食べ物）のおかげだと考え、いろいろなことに対する『感謝』と『ほかの人や物への思いやり』を大事にしてきました。

だから、朝、人に会った時も、「お早く起きて、健康でよろしいですね。」「朝からお早いですね。今日もよろしくお願ひします。」「お早くからごくろうさまでございます。」というように、相手をいたわる言葉から一日を始めていたのです。その言葉が時代の流れとともに省略され、「おはよう」になったそうです。今使われているあいさつの言葉は短いですが、その後に続くいたわりの言葉があったのです。「あいさつ」には、相手のことを大切に思ってかける思いやりの心がこめられているからこそ、「あいさつ」をしても、されても、なんかあったかい気持ちになるのです。

「あいさつ」にはもう一つ～相手に対して自分の心を開こうとする～という働きもあります。人とつながろうと思えば、自分から心を開くことが必要になります。自分から心を開く気持ちを持つと、人間関係が広がります。簡単に言えば『友達が増える』ということになると思います。

学校の一日は、元気の良い挨拶から始まります。ぜひ、自分から元

気よく挨拶をするようにしましょう。

話が少し変わりますが、挨拶とセットで言われるのが服装です。以前お話ししましたが、シャツを出してのだらしない服装、帽子忘れ、わざと帽子をかぶらない人がいます。身だしなみは大切ですし、帽子をかぶることにより、目立つので、安全面でも効果があります。また、熱中症の予防にもなります。ぜひ、服装を整えてから、登校するようにしてくださいね。暑い日が続くので、早めにお茶やお水を飲むようにして、くれぐれも熱中症には気を付けてください。